

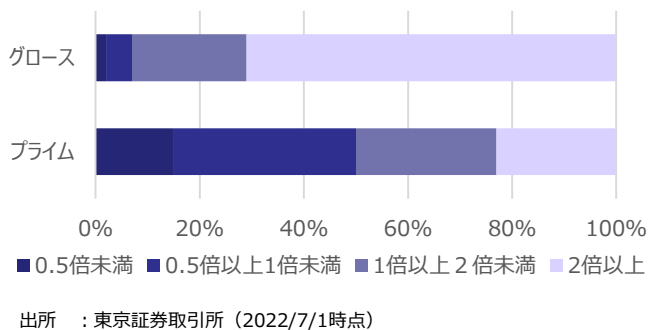
“高い成長可能性を有する企業向けの市場”として、日本の産業の柱となる会社を育てる役割を期待

【図表 1】 TOPIX及び東証マザーズ指数の推移 ※1



出所 : Quick (2022/7/11時点)
 ※1 2021/12/1終値を100として指数化

【図表 2】 市場区分別のPBR分布



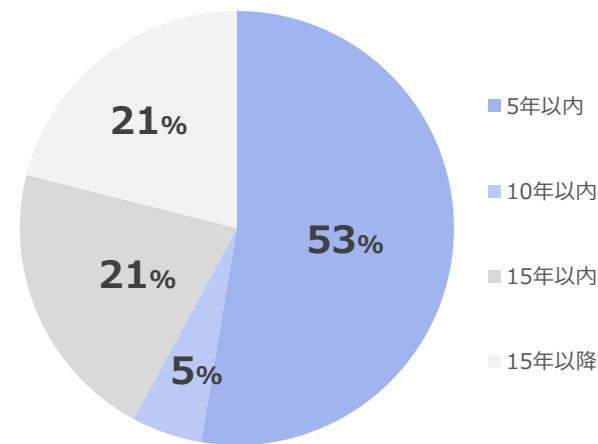
【図表 3】 グロース市場基準ごとの未充足企業数 ※2

流通株式時価総額 (5億円以上)	2 社
流通株式比率 (25%以上)	20 社
時価総額 (10年経過後40億円以上)	18 社
合計 (重複除く)	39 社

出所 : 東京証券取引所 (2022/7/1時点)
 ※2 適合計画を開示している45社のうち、6社は自社の試算ベースで適合した旨を公表

【図表 4】 グロース上場会社による主な資金調達

上場後経過年数毎の資金調達状況の分布 ※3
 (2017年~2021年、調達額100億円以上、IPO除く)



※3 市場区分の見直しに関するフォローアップ会議 第一回事務局
 説明資料よりみずほ銀行作成

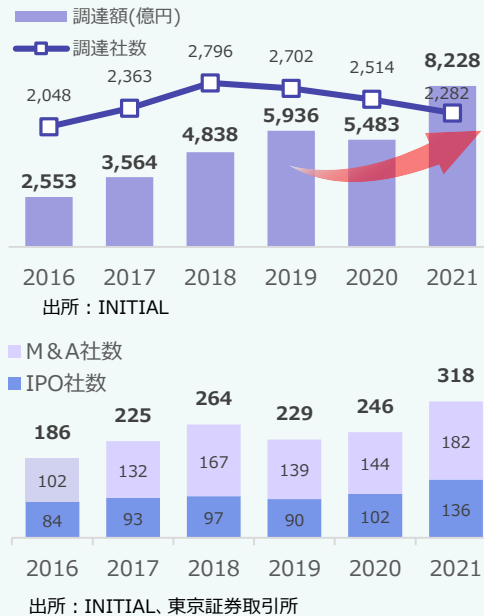
グロース市場は、エントリーチケットとしては有効に機能しているが、高い成長可能性を有する企業が集まる“魅力的な市場”にするためには、更なるブラッシュアップが必要なのではないか

・ 新陳代謝を促す仕組み入れ、上場後の経営者に改めて“成長インセンティブ”を付与。一方で、M&A等による退出も図るべきか

スタートアップ・エコシステムの“カネ”を回すためには、セカンダリー市場活性化は不可欠
 足元では、VCファンド期限到来等による、Exit対策が求められる事例も発生

スタートアップ・エコシステム

Exit活性化余地大きい
 →流動性が求められている



投資家

富裕層は、投資意欲はあるが
 投資機会・リテラシーは不足

超富裕層※1
 純金融資産活用
 (2015年:75兆円→2019年:97兆円※2)

プライベートファンド
 富裕層等の取りまとめ機能

機関投資家
 プレIPO段階の投資

※1世帯の純金融資産保有額が5億円以上
 ※2出所：野村総合研究所

スタートアップ・エコシステムに関し、日本と比較して圧倒的な広い裾野を持つ“米国”では
 非上場マーケットプレイス、店頭登録市場等が存在

有力企業の健全な資本政策の維持、スタートアップ・エコシステムの“カネ”を回すためにも、セカンダリー市場を
 活性化させる仕組みは必要だが、日本市場の現状を踏まると、それは、どのようなものなのか

- ・ 企業オーナーを中心とした富裕層に、ベンチャー企業への投資ニーズも相応に顕在化
- ・ 特定投資家私募等、仕組みの整備は進展。証券会社他の金融仲介者のメリットある枠組みとして運営できるか